

後期終業式 式辞 ～ その日のために ～

昨年、正月、自宅でゆっくりしていたとき、突然飛び込んできた衝撃的なニュースに愕然とした記憶が今も鮮明に残っています。令和6年1月2日、羽田空港で航空機衝突事故が起きました。着陸した日本航空機と滑走路上に進入していた海上保安庁の航空機が衝突して両機が炎上し、日本航空機には乗客と乗員合わせて379人が搭乗していました。

その後、世界各国でこのニュースが報道されましたが、報道内容は以下のようなものでした。ロイター通信「客室乗務員が良い仕事をしたに違いない。全員が降りられたのは奇跡だ」。シンガポール ニュース・アジア「これは驚くべき脱出であり、奇跡的な脱出だ。荷物を置いて飛行機を降りるという、基本的な規律による奇跡の脱出だ」。そして、日本のインターネット X では、「#ありがとう JAL」がトレンド入りしました。いったい何が起きたのでしょうか。

衝突事故が起きた直後、客室乗務員が機長に火災の発生を知らせます。機長は脱出を指示しました。しかし、後方では機内インターフォンが故障し、操縦席との連絡ができなかったため、機長の指示が聞けませんでした。したがって、後方の客室乗務員は、自分の判断で脱出を決意したとのことでした。出口は火災のため5箇所が使用不能。使用できる前部両方と後部左（計3箇所）の緊急脱出スライドを展開して脱出することを決断しました。その間、乗客の中から悲鳴や「早く出してください」「開ければいいじゃないですか」などの声も上がり、客室内はパニック寸前でした。そんな中で、衝突でアナウンスシステムが故障していたにもかかわらず、客室乗務員は自分の肉声やメガホンで乗客を冷静に誘導しました。その結果、乗客乗員379人が衝突から11分で全員脱出し、一人の犠牲者を出すことなくこの大惨事を乗り切る結果となりました。そして、この奇跡の救出劇に国内外から多くの賛辞の声が贈られました。

このような状況下で、なぜ客室乗務員は冷静でいられたのでしょうか。驚くべきことは、搭乗していた客室乗務員のうち半数が入社して半年の新人であったということです。しかし、これらの客室乗務員には、ある確信がありました。「90秒でお客様全員を避難させる」。この確信が、乗客全員の命を救う結果につながりました。この一連の救出劇の裏には、常日頃の想像を超える訓練があったことを見逃すことができません。緊急脱出訓練は最も過酷で、数時間にわたって日本語と英語で緊急アナウンスの練習をし、教官からは一言一句を正されます。教官から「これが本番だったら、お客様は死んでいました。あなたは命を預かる責任の重さわかっているの?」と怒られ、涙を流す訓練生もいるそうです。これらの厳しい訓練を耐え忍ぶことができるのは、訓練を受ける人全員が乗客の命を救う「その日」のための唯一の方法なのだと認識しているからです。

客室乗務員だけではなく、私たちにも「その日」はやってきます。「その日」のための準備ができているかで人生が大きく変わることがあります。その準備には「2つのタイプ」があります。それは、①想定できる準備、②想定できない準備、この2タイプです。①の想定できる準備とは、事前に目的が明確であり、想定できる状況をイメージして、その対策を考えて準備するものです。例えば、避難訓練や大学受験のための勉強、また部活動での練習などがそれに相当します。それに対して、②の想定できない準備とは、どんなものでしょうか。例えば、アルバイトを考えてみましょう。アルバイトの目的は、報酬をもらい、生活を豊かにするためというのが普通の目的です。しかし、アルバイトでは、店長や先輩に厳しく叱られることがあったり、お客様に「おいしかった」「また来るわ」と言われ、うれしい気持ちになることがあります。また、アルバイト代が入ったときは最高にうれしい気持ちになり、次も頑張ろうと思います。アルバイトにより、日常では経験できない様々なことを経験し、そこから労働の喜びやコミュニケーション能力の向上、また周りの空気を読み取る能力等当初の目的と違った利益を得る可能性があります。これは事前に想定できないことです。

私は大谷翔平選手の話をよくしますが、彼こそが想定できない準備を大切にし、世界の頂点に上りつめた人物です。以前、本人が高校時代に夢を実現するために作成した「マンドラート」の話をしました。大谷選手は夢を達成するために必要な要素を8つ考えました。「体づくり、コントロール、キレ、スピード160キロ、変化球、人間性、メンタル、運」。この中で注目すべき点は、要素のすべてが体力や技術に関するものではなく、そのうち3つが「人間性、メンタル、運」といった一見目標達成に無関係に見えるものだということです。日頃、何気なしに行っている他人と自分に「プラスになること」は、知らず知らずのうちに「その日」のための準備を進め、自分の夢や希望の実現につながっていることを、大谷選手は高校生の時に既に理解していたのでしょう。

自分たちの行為の多くが何かの準備になっています。特に、他人の利益につながる行為や自分にとって前向きな行為は確実に何かの準備になっています。そして、その準備は自分の人生に関わる可能性があります。いつかやってくるその日のために、想定できない準備があることにも着目して、夢と希望を追い求める高校生活を送ってください。来年度も実りある高校生活を送ってくれることを願っています。

令和7年3月 21日

兵庫県立西宮香風高等学校長 桑田 圭介